



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 フリュー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三嶋 隆
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部 本部長 (氏名) 笹沼 理成 TEL 03-5728-1761
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	8,142	1.8	679	△42.9	639	△45.8	416	△48.8
2022年3月期第1四半期	7,999	—	1,190	—	1,179	—	812	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 509百万円 (△37.3%) 2022年3月期第1四半期 811百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	15.21	—
2022年3月期第1四半期	29.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	25,627	20,337	79.4
2022年3月期	28,146	21,250	75.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 20,337百万円 2022年3月期 21,250百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	52.00	52.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	0.00	—	38.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,600	7.5	2,240	△39.6	2,240	△39.6	1,555	△38.9	56.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期1Q	28,296,000株	2022年3月期	28,296,000株
2023年3月期1Q	935,766株	2022年3月期	935,766株
2023年3月期1Q	27,360,234株	2022年3月期1Q	27,360,259株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年6月30日)における我が国の経済は、現在も新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、緩やかな回復に向けた動きを見せる一方で、急激な円安による金融市場の変動や資源・エネルギー高による消費への影響が懸念されており、さらにはロシア・ウクライナ情勢などを要因に、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する!」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP(知的財産)を利用した商品販売に注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高8,142百万円(前年同期比101.8%)、営業利益679百万円(前年同期比57.1%)、経常利益639百万円(前年同期比54.2%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は416百万円(前年同期比51.2%)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(プリントシール事業)

プリントシール事業におきましては、まん延防止等重点措置が3月に全国で解除となり、前年同期からはプレイ回数が回復傾向にあるものの戻りは鈍く、厳しい市場環境が続く中、6月に新機種「ルートミー」を発売しました。以上から、当第1四半期連結累計期間のプレイ回数は766万回(前第1四半期連結累計期間は655万回)となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,660百万円(前年同期比110.6%)、営業利益は70百万円(前年同期は211百万円の営業損失)となりました。

(コンテンツ・メディア事業)

コンテンツ・メディア事業におきましては、プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」の有料会員数は季節要因により2022年3月末から一時的に減少し、2022年6月末時点で143万人(2021年6月末時点は142万人)となりました。

カラーコンタクトレンズの販売につきましては、利益確保のため他社商品の販売にかかる広告費を削減し、「LuMia」「ramurie」等の自社ブランドの販売に注力しました。

データ広告事業につきましては、案件数の増加に伴い、売上が増加しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,114百万円(前年同期比104.5%)、営業利益は803百万円(前年同期比92.1%)となりました。

(キャラクター・マーチャンダイジング事業)

キャラクター・マーチャンダイジング事業におきましては、人気漫画作品、人気アーティスト及び世界的人気ゲーム等の多数の新規キャラクター版権の獲得とその商品化を行いました。

商品の生産は主に中国で行っておりますが、ドル建てでの決済が多く円安の影響を受けております。

クレーンゲーム景品は、昨年度ほどの爆発的人气IPはなく、スケールメリットが小さくなり利益率は低下しました。その一方でクレーンゲーム市場拡大と複数の人気IPの商品化により売上規模は維持しております。

海外物販は、中国に加えアメリカへの販路拡大が進んでおり、売上を伸ばしております。

高価格帯ホビーは、アイテム数の増加等により売上を伸ばしております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,705百万円(前年同期比103.7%)、営業利益は237百万円(前年同期比28.7%)となりました。

(ゲーム事業)

ゲーム事業における事業別の取り組みは、以下のとおりです。

家庭用ゲームソフト事業につきましては、4月に他社IPの新作タイトル「バトルスピリッツ コネクテッドバトルズ」を発売しました。

ゲームアプリ事業においては、女性向け恋愛シミュレーションゲーム市場が縮小傾向にあり、当社グループの売上も前年度を下回っております。

アニメ事業は、TVアニメ「ゆるキャン△」関連を中心とした配信収入や製作委員会の配分金収入が牽引し、見込み通りの進捗となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は661百万円(前年同期比73.6%)、営業利益は1百万円(前年同期比1.3%)となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が25,627百万円、負債が5,290百万円、純資産は20,337百万円となりました。また、自己資本比率は79.4%となりました。

（資産）

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2,518百万円減少し、25,627百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加（前連結会計年度末比1,174百万円の増加）があった一方で、現金及び預金の減少（前連結会計年度末比2,769百万円の減少）、受取手形及び売掛金の減少（前連結会計年度末比463百万円の減少）があったことによるものであります。

（負債）

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,605百万円減少し、5,290百万円となりました。これは主に買掛金の増加（前連結会計年度末比486百万円の増加）があった一方で、電子記録債務の減少（前連結会計年度末比536百万円の減少）、未払法人税等の減少（前連結会計年度末比858百万円の減少）があったことによるものであります。

（純資産）

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ913百万円減少し、20,337百万円となりました。これは主に配当金の支払いによる利益剰余金の減少（前連結会計年度末比1,006百万円の減少）によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年8月12日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」の通り修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,662,406	11,892,949
受取手形及び売掛金	3,980,189	3,516,857
電子記録債権	961,251	947,209
棚卸資産	2,008,814	3,183,340
その他	1,780,725	1,582,405
貸倒引当金	△7,371	△6,654
流動資産合計	23,386,016	21,116,107
固定資産		
有形固定資産	2,633,617	2,446,320
無形固定資産	554,864	529,276
投資その他の資産		
その他	1,592,107	1,563,334
貸倒引当金	△20,150	△27,337
投資その他の資産合計	1,571,956	1,535,997
固定資産合計	4,760,438	4,511,593
資産合計	28,146,455	25,627,701
負債の部		
流動負債		
買掛金	862,036	1,348,905
電子記録債務	1,575,446	1,038,819
未払法人税等	1,110,180	252,032
賞与引当金	—	284,575
その他	3,160,481	2,156,972
流動負債合計	6,708,143	5,081,305
固定負債		
退職給付に係る負債	180,186	201,768
その他	7,148	7,148
固定負債合計	187,335	208,917
負債合計	6,895,479	5,290,222
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,614,716	1,614,716
利益剰余金	19,003,864	17,997,360
自己株式	△1,000,385	△1,000,385
株主資本合計	21,257,410	20,250,906
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	54,328	145,621
退職給付に係る調整累計額	△60,762	△59,049
その他の包括利益累計額合計	△6,434	86,572
非支配株主持分	—	—
純資産合計	21,250,976	20,337,478
負債純資産合計	28,146,455	25,627,701

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	7,999,024	8,142,259
売上原価	4,014,359	4,270,019
売上総利益	3,984,664	3,872,240
販売費及び一般管理費	2,794,410	3,192,311
営業利益	1,190,253	679,928
営業外収益		
助成金収入	1,576	21
補助金収入	—	5,196
その他	332	30
営業外収益合計	1,908	5,247
営業外費用		
支払利息	89	108
為替差損	12,436	45,943
その他	0	—
営業外費用合計	12,526	46,052
経常利益	1,179,635	639,123
特別損失		
固定資産除売却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	1,179,635	639,123
法人税等	375,669	222,895
四半期純利益	803,966	416,228
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△8,244	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	812,210	416,228

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	803,966	416,228
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	5,810	91,293
退職給付に係る調整額	1,889	1,713
その他の包括利益合計	7,700	93,006
四半期包括利益	811,666	509,234
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	819,911	509,234
非支配株主に係る四半期包括利益	△8,244	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27－2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	1,500,874	2,024,230	3,574,539	899,379	7,999,024
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	1,500,874	2,024,230	3,574,539	899,379	7,999,024
セグメント利益又は損失(△)	△211,586	872,305	829,920	102,362	1,593,002

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	7,999,024
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—
計	—	7,999,024
セグメント利益又は損失(△)	△402,748	1,190,253

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△402,748千円は、全て全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャндаイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	1,660,611	2,114,346	3,705,646	661,654	8,142,259
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	1,660,611	2,114,346	3,705,646	661,654	8,142,259
セグメント利益	70,270	803,134	237,863	1,372	1,112,639

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	8,142,259
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—
計	—	8,142,259
セグメント利益	△432,711	679,928

(注) 1. セグメント利益の調整額△432,711千円には、セグメント間取引1,224千円、各報告セグメントに配分して
ない全社費用△433,935千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理
費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。